



# News Letter

国際農業機械化研究会

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3 新農林社内 電話 03-3291-5718・3674

INTERNATIONAL FARM MECHANIZATION RESEARCH SERVICE

c/o SHINNORIN-SHA, 1-12-3 KANDA NISHIKI-CHO, CHIYODA-KU, TOKYO, ZIP101-0054 JAPAN., TEL. 03-3291-5718・3674

News Letter 通巻 449号

2012. 4. 17  
毎月1回・20日発行

発行責任者  
岸田 義典

## 目次

# 2012

- 国際農業機械化研究会報告会より……………2  
ベトナムの機械化情報  
生研センター 企画部長 西村 洋
- 国別輸出入 (2012年1月)……………8
- WORLD NEWS……………23
- EVENTS CALENDER……………25

# 3

# ベトナムの農機事情

西村 洋

(独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
企画部長 〈前職：基礎技術研究部長「ロボットチーム長」〉)

国際農業機械化研究会は(株)新農林社と共催で、第 450 回海外農業機械報告会を平成 24 年 3 月 29 日(木)に開催した。講師は独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 企画部長 〈基礎技術研究部長「ロボットチーム長」〉 西村洋氏。西村氏は、2011 年 11 月 27 日から 12 月 4 日までベトナムのハノイ、ダラット、ホーチミンを訪ね、ハノイ農業大学をはじめ、各研究所、生産現場をまわってきた。

今回の報告会では、その時の様子を映像を交えながら「ベトナムの農機事情」として報告した。要旨は以下の通りである。

昨年末にベトナムを訪問し、ハノイ、ダラット、ホーチミンをほぼ一週間でまわってきました。その中で見聞きしてきた情報を中心にお話します。ベトナム国内でどういう農業を行なっているかを肌で感じるというのが一番大きな目標でした。

## ベトナムの農業

ベトナムは、インドシナ半島の海辺に沿う国で、面積が 33 万 km<sup>2</sup>、人口 1,800 万、首都はハノイで主要言語はベトナム語です。GDP はここ 10 年、平均成長率 7.3% ですが、数値そのものについてはタイや中国の 4 分の 1 程度というのが現状のようです。1986 年、今から 26 年前にドイモイ政策がとられ、社会主義共和国としての計画経済から全方位

外交へ舵を切り、このような成長率をあげているといわれています。

ベトナムの農業は、米が半数以上を占めています。その他、トウモロコシ、野菜、ゴム、キャッサバ、コーヒー等が主な栽培品目で、米、コーヒー、カシューナッツ、コショウに関しては輸出で世界第 2 位(図 1)と結構な農業輸出国になっている状況です。

米は、国内全般で作られ、ハノイ近郊の紅河流域のデルタ地帯とメコン河流域のデルタ地帯が 2 大産地となっています(図 2)。ただし、栽培面積や農業方法に相当な違いがあります。また、生産量でみるとメコンデルタ地帯の方がずば抜けて大きいです。紅河デルタ地帯では約 5 割が自家消費され、ほとんど販売には回りません。一方のメコンデルタ

図 1

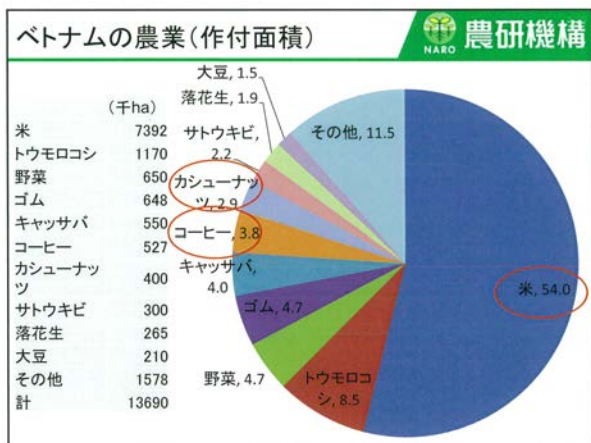


図 2

